



リエゾンチームからみなさまへ リエゾン便り



みなさま、はじめまして。リエゾン[※]チームです。

リエゾンチームは、精神科医師、精神看護専門看護師、臨床心理士で構成されています。主に、入院中の患者さんやご家族の心理的サポートをしています。

このお便りが届くころ、コロナ禍の世界はどんなふうになっているのでしょうか？ この時代を生きる中で、つい、最悪の事態を考えて、怖くなったり不安になったりしている方もいると思います。

今日は、そんなみなさんに、とっておきの方法をお伝えします。

「考えること、想像することをストップする方法」です。

考えるのをやめようとして、余計気になってしまったという経験はありませんか？でも大丈夫。

次の方法を試してみてください。

今、あなたの耳には何が聞こえますか？

誰かがしゃべる声？空調の音？鳥のさえずり？

しばらく、その音がどんな音か、じーっと聞いてみてください。

音に変化はありましたか？それともずっと同じ？

ほら、もう、あなたの意識は、考えることからそれて、耳に集中しています。

いかがでしたでしょうか？「今、ここ」にある自分の感覚に注意を向けると、考えることから少し距離がとれるようです。これは、「マインドフルネス」に基づいた方法です。

それでは、今回はこの辺で。



※“リエゾン”はフランス語で「つなぐ」という意味です

● 人間ドックに関するお問い合わせ

虎の門病院附属 健康管理センター・画像診断センター
〒107-0052 東京都港区赤坂1-8-1赤坂インターシティAIR5階

TEL **03-3560-7777**

平日 11:00～16:30(土・日・祝日は休み)
虎の門病院 人間ドック
WEB <https://toranomom-dock.kkr.or.jp/sp/>
スマートフォンの方はコチラから



国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 TORANOMON HOSPITAL 〒105-8470 東京都港区虎ノ門2丁目2番2号 TEL:03-3588-1111(代) <https://toranomom.kkr.or.jp/>

国家公務員共済組合連合会 虎の門病院分院 TORANOMON HOSPITAL KAJIGAYA 〒213-8587 神奈川県川崎市高津区梶ヶ谷1丁目3番1号 TEL:044-877-5111(代) <https://toranomom.kkr.or.jp/kajigaya/>

発行日:2021年4月 無断転載禁止



国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 広報誌 [ティーマガジン]



T-MAGAZINE

006

TAKE FREE

〒105-8470 東京都港区虎ノ門2丁目2番2号 TEL:03-3588-1111(代)

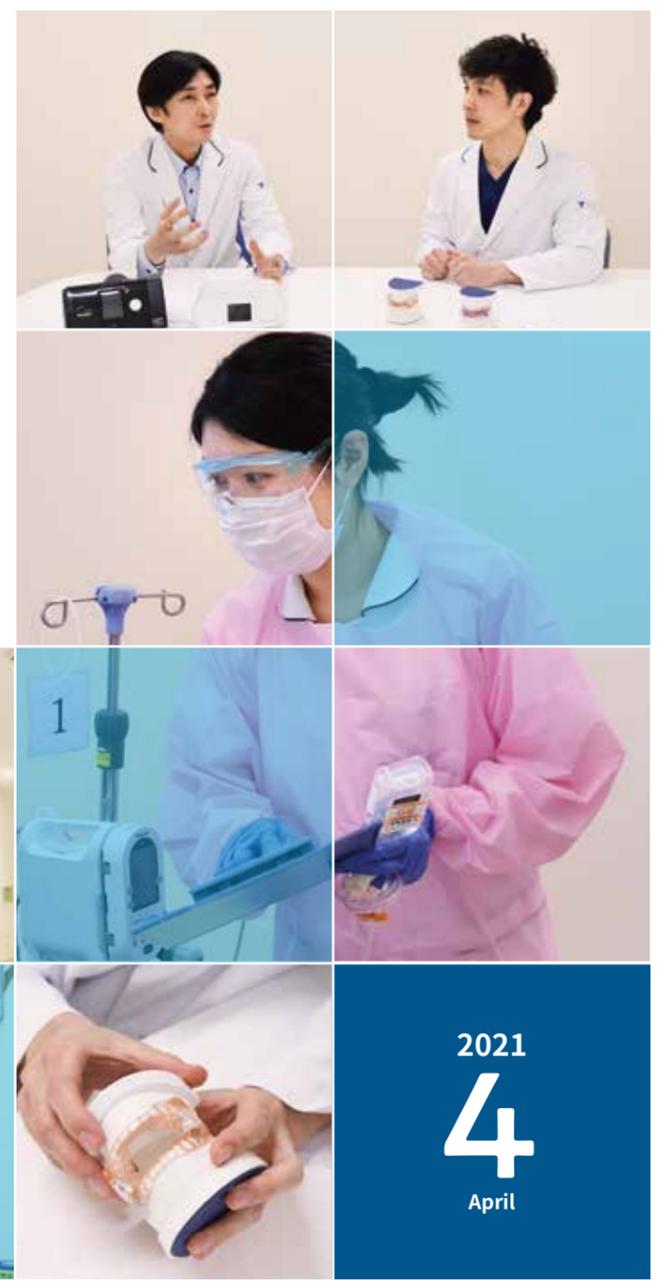
特集

「がん化学療法」

虎の門病院の化学療法とは？
抗がん剤副作用・合併症マネジメントセンター

病院の現場を探訪！
TORA Watch! 「ICT(感染対策チーム)」

TALK SESSION
「睡眠呼吸器科×歯科」
睡眠時無呼吸の治療



2021
4
April

重要なお知らせ

● 虎の門病院及び関連施設WebサイトのURL変更について

この度 2021年3月1日にホームページURL が変更となりました。ブックマーク等されている場合は、お手数ですが新URL での登録変更をお願いいたします。

<https://toranomom.kkr.or.jp/>



虎の門病院がん化学療法

虎の門病院の化学療法とは？

患者さんの生活の質を第一に、安全・安心な抗がん剤治療を目指しています。



化学療法
(細胞障害性抗がん剤)

分子標的
治療

免疫療法

抗がん剤治療には、一般的によく知られている化学療法(細胞障害性抗がん剤)と分子標的治療、そして免疫チェックポイント阻害薬を用いる免疫療法の3つがあり、それぞれまたは併用で行います。効果を期待して行いますが、一定の頻度で副作用が起こります。そのため医師だけでなく、薬剤師や看護師などが専門知識と技術を発揮し安全に実施できるよう努めています。治療中の患者さんの不安に思いやりを持って寄り添い、安心して治療を受けられるようサポートしています。

外来化学療法とは？ がん患者さんが外来通院で抗がん剤の投与を受けることを示します。



通院で治療を受けるメリット

- ☑ それまでの生活をできるかぎり続けながら治療が受けられる！
- ☑ 精神的にもリラックスできる！
- ☑ 仕事が継続できる可能性も高い

多くの抗がん剤治療が外来通院で受けられるようになっています！

がん治療医だけでなく、外来化学療法室専属の看護師や薬剤師など、がん治療に精通しているスタッフのサポートで日常生活との両立をめざします。

外来化学療法室薬剤師の役割

薬剤部では処方された抗がん剤について治療歴・投与量・休薬期間・検査値等の確認を行い、調剤を行います。また注射抗がん剤について薬剤師が高度に清潔な環境下で厳密に調製を行っています。新たに抗がん剤治療を始める場合や薬の変更があっ

た際には、薬剤師から抗がん剤の投与方法やスケジュール・効果・副作用・日常生活上の注意点などについて説明を行い、患者さんが安心して抗がん剤治療を受けて頂けるよう支援しています。



外来化学療法室看護師の役割

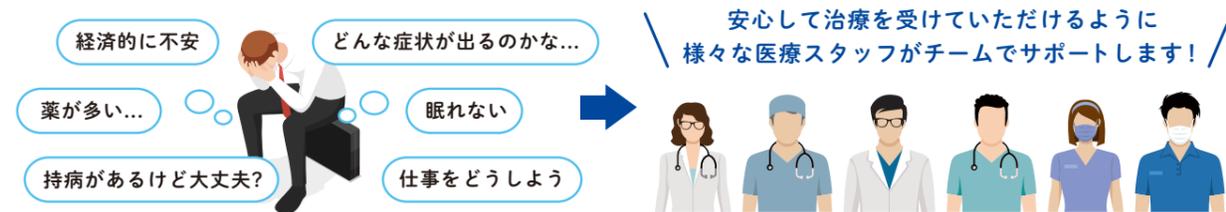
外来化学療法室では、安全に確実に安楽に点滴治療を受けられるよう責任をもって患者さん、ご家族を支えています。治療中の副作用等のモニタリングはもちろんのこと、様々な年齢や生活背景をもつ患者さんたちに対して、

ご自身でも症状に対してケアが行え、必要な知識や技術を身につけられるようサポートしています。治療の中で感じる不安や気かりにも共に寄り添い、ご自身らしい生活が送れるよう関係する部署と連携をとりながら支援しています。



抗がん剤副作用・合併症 マネジメントセンター

がん治療の発展と多様化は目覚ましいものがありますが、副作用や合併症の管理はますます複雑になっています。当センターでは、がん治療医との連携をさらに強化した腫瘍循環器外来・腫瘍糖尿病外来が開設されました。専任の看護師・薬剤師・栄養士・リエゾン、相談支援センターと連携し、チームでがん患者さんをサポートします。



治療前

がん治療の副作用のリスクの高い方、がん治療に影響のある持病を持つ方の評価・治療、ケア

CASE-1

心臓の機能が低下していた40歳代の乳がんの患者さん。抗がん剤治療による心臓への影響が懸念され、当院へ紹介されました。腫瘍循環器外来のサポートのもと、心エコーなどのこまめなフォローを行い、抗がん剤治療を安全に最後まで完遂できました。

治療中

がん治療に伴う副作用や持病の評価・治療・ケア

CASE-2

糖尿病をお持ちの70歳代の食道がんの患者さん。抗がん剤治療に含まれるステロイド薬で急激に血糖値が上昇したため、腫瘍糖尿病外来に紹介となりました。栄養相談を行い、食事摂取量に応じた内服薬を使用して、血糖値を抑えながら安全に抗がん剤治療を継続しています。

治療後

治療後も続く副作用の評価・治療・ケア

CASE-3

40歳代の乳がんの患者さん。抗がん剤で出現した手足のしびれが、治療終了後も残ってしまいました。ペットボトルの蓋が開けづらい、小さな段差でつまずくなどの症状が、生活の見直しやしびれの治療で、症状が和らぎ、生活の質を維持できるようになりました。

※治療経過や効果には個人差があります

抗がん剤副作用についてのご相談はこちらへ **がん相談支援センター**

TEL **03-3588-1171** (直通) 受付時間: 平日9:00~16:00

※お電話にて抗がん剤副作用に関するご相談の旨をお伝えください。

WEB <https://toranomom.kkr.or.jp/cancer/general/consultation/>



心血管疾患を合併する患者さんもサポート

がん治療中も日常生活を維持するためには、治療のメリット・デメリットを考える必要があります。特にがんと心血管疾患を合併した場合、どちらを優先すべきか判断が難しい患者さんもいらっしゃいます。腫瘍循

腫瘍循環器

環器外来では、心血管疾患を合併するがん患者さんが治療を受けられるよう、主治医と協力してサポートしてまいります。

糖尿病がある人でも安心してがん治療を受けられるように

腫瘍糖尿病

糖尿病の患者さんが抗がん剤治療や手術を受ける場合には、抗がん剤治療の薬剤の影響や食事量の変化などで、血糖値が大きく変動することがあり、いつも以上に糖尿病の管理が重要となります。また、血糖値が高い場合には、がん治療の選択が一部制約されたり血

糖コントロールを行ってからがん治療に進んだりすることもあります。腫瘍糖尿病外来では糖尿病がある人でも、ない人と同様にがん治療を受けられるよう、がん治療の主治医と協力しながらサポートしてまいります。

PICK UP

外来看護師による、がん患者さんへのサポート

5階中央処置室では、点滴や輸血、腹水穿刺などの処置を行っています。院外でも何か症状があった場合、電話相談をお受けしています。

経口抗がん剤治療中の患者さんへは、副作用への対処法や生活上の工夫などを指導しています。さらになんによる苦痛の緩和ケアとして、モルヒネなどの鎮痛薬の導入もサポートしています。

乳腺・内分泌外科の患者さんには、術前オリエンテーションを実施し、入院・手術に対する不安の軽減を図っています。

リンパ浮腫予防のために、手術前・術直後から肩の動きや痛みの度合いを確認し、リンパ浮腫の研修をした、医師や看護師と連携して日常生活のサポートをしています。

2階患者サポートセンターと連携をとり、ご自宅での介護が必要となった場合、要介護認定や訪問看護などの調整も行っています。

外来の奥まったところがありますが、ちょっとした質問や、診察待ちの時間が辛い時などお気軽にお立ち寄りください。



病院の現場を探訪!
TORA Watch!

第6回は、ICT担当の
宇野さんに現場をご案内
いただきます。



PICK UP

ICT(感染対策チーム)は院内で起こる様々な感染症の防止対策に日々取り組んでいます。どうぞ安心してご来院ください。

感染制御の専門知識を持つ医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、事務職員などの多職種で構成され、新型コロナウイルスを含めた院内感染防止対策の中心的な役割を担っています。院内で起きた感染症を把握し、適切な措置や対策を行っています。



ICTの仕事はたくさんありますが、その中からいくつか皆さまにご紹介いたします。

「ICT」の仕事にはどんなものがありますか？

ICTラウンド

病院内のありとあらゆる部署をラウンドしています。職員が必要なタイミングで手洗い・手指消毒ができていないか、水廻りや医療品は清潔に管理されているか、ゴミはきちんと分別されているかなど、細かくチェックしています。



問題点が見つかったときは改善できるよう現場と相談しています。

個人防護具着脱研修

新型コロナウイルス関連のニュースで目にする機会が多くなった防護具ですが、ICTでは日頃から職員向けに研修を行っています。



感染しない、させないためにも、正しい手順で着脱する重要性を指導しています。

手指衛生推進の取り組み

職員に手洗い指導をしています。蛍光塗料を用いて洗い残しを確認することで、手指衛生に対する職員の意識向上に努めています。



院内のいたるところに手指消毒薬が置いてありますので、積極的にご利用ください。

掲示物による感染対策の啓発活動

患者さんやそのご家族、当院にいらっしゃったすべての方々に感染対策について理解していただきたいと願い、院内のさまざまなところに感染対策のポスターを掲示しています。



複数の病院と連携しており、お互いに院内ラウンドしたり、定期的に情報を交換したりしています。

TALK SESSION

睡眠呼吸器科×歯科

富田 康弘
TOMITA YASUHIRO

陶山 雄司
SUZUKI YUJI



左から陶山 雄司(歯科 医長/分院歯科 医長)・富田 康弘(睡眠呼吸器科 医長)

睡眠時無呼吸の治療は
医科と歯科の
スムーズな連携がカギ

眠っている間に何度も呼吸が止まってしまう「睡眠時無呼吸」。日中に強い眠気に襲われたり、脳卒中や心筋梗塞などのリスク上昇につながったりするため、できるだけ早期から適切な治療を始める必要があります。虎の門病院では、睡眠呼吸器科と歯科がタッグを組み、患者さんに寄り添ったスピーディーな介入をめざしています。

「しっかりと眠れない」苦痛を
2種類の治療法で改善する

富田:睡眠時無呼吸は、空気の通り道である上気道が狭くなることで起こります。その原因は肥満だけでなく、顎の形状などが影響する場合もあり、特に日本人は太っていないまでも罹患しやすい傾向にあります。

陶山:歯科治療中に「もしかしたら睡眠時無呼吸?」と感じることも多く、いびきの有無などを質問して、可能性がある場合は睡眠呼吸器科へ紹介しています。

富田:治療法は、鼻に装着したマスクから空気を送り込むCPAP(シーパップ)療法と、マウスピースを装着する治療に大別されます。マウスピース治療は歯科で行うので、適応となる患者さんには紹介しています。当日でも受診できるのでとても助かっています。

陶山:マウスピースを装着するのは、舌が気道に落ち込まないように、下顎の位置を前方に保持するためです。実は、私自身も睡眠時無呼吸を患い、マウスピース治療で症状が改善した経

験があります。「目覚めたときは今よりもっと疲れている」と思いながら眠りにつくのはつらいものです。

富田:治療を受けて「世界が変わったようだ」と喜ぶ患者さんもいますね。肥満が原因の場合は適正体重に戻すことが大切なので、栄養相談外来を利用した生活改善もサポートしています。

患者さんの生活も踏まえ
最善の治療法を模索する

陶山:一般的には重症度が高ければCPAP療法が第一選択になるかと思いますが、富田先生はより多角的な視点から治療法を検討しているそうですね。

富田:検査結果だけでなく、患者さんの生活スタイルなども考慮しています。例えば、「出張が多くてCPAPの機器を持ち歩くのが難しい」「CPAPではうまく眠れない」といった理由でマウスピース治療のほうが向いている方もいます。

陶山:「マウスピースのほうが受け入れやすい」と感じる患者さんも少なくありません。ただ、顎の痛みなどが後から出てくることもあるので、顎関節

の負担や疲れを顎の動きや位置から事前に察知し、症状が悪化する前に手を打つことを意識しています。

富田:患者さんの困りごとをうまく引き出し、どうすれば治療を続けられるか模索することも私たちの役割ですね。当院は、地域との結び付きを重視していますので、ご自宅の近くで治療が続けられるような提案もしています。結果として地域の病院からご紹介いただく機会が増え、医科・歯科ともに症例数が豊富なことも当院の強みです。

陶山:治療のスピード感も特徴的です。例えばマウスピース治療の場合、睡眠呼吸器科から紹介されたその日に歯科を受診してマウスピース作製の準備に入ります。

富田:当院ではどの診療科でも睡眠時無呼吸の検査機器を貸し出せるので、「寝ても疲れが取れない」「家族からいびきが大きくて困ると言われている」といった悩みは気軽に主治医へ相談してください。シームレスな院内連携で、より効果的かつ負担の少ない治療法を提案させていただきます。